

## 第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA オンラインアジア大会(動画審査) 総評 小学 5・6 年生部門

### ●審査員 A

この部門約 80 人の参加者の演奏を聴いた後、生徒さんと先生方が、ポーランド音楽のセレクションで構成されたコンクールのプログラムを非常によく準備されたことが伝わってきました。以下の要素にも注目してみてください。

- 1) シマノフスカとショパンのポロネーズでは、小節の最初の拍をより目立たせ、5 番目、6 番目の八分音符を長めに。また、テンポは統一しつつも、A と B 各セクションの性格の対比を強調してみましょう。
- 2) ショパンの即興曲は、技術的な練習曲として捉えてはいけません。特によく演奏される「幻想即興曲」では、装飾的な部分も旋律として扱いましょう。
- 3) 生徒さんの個性や音色・感情的な想像力を伸ばすことにもっと注意を払ってみましょう。すると演奏の喜びや熱意をより一層引き出すことができるでしょう。

### ●審査員 B

- ・ほとんどの皆さんはピアノ演奏を楽しんでいらっしゃるように思いました。その気持ちを忘れないでください。
- ・先生方のご指導のもと一生懸命に練習した後は、自分の心のままに音楽を表現してください。
- ・ピアノを弾く姿勢にも注意を払いましょう。音の質にも関わるからです。体や腕が過剰に動くと不自然になり、音楽に集中できなくなります。
- ・楽譜に書かれているすべての記号をよく読み、尊重しましょう。
- ・鍵盤のタッチを変え、音、アーティキュレーション、強弱を変化させながら、より多彩でコントラストのある表現を感じ生み出しましょう。
- ・ペダルも大切な表現手段だと考えましょう。
- ・これからの音楽人生が充実されることをお祈りしています！

### ●審査員 C

親愛なる参加者の皆様、コンクールでの演奏と、アジア大会への出場権を獲得されたことにお祝い申し上げます。皆さんの演奏をととても楽しく聴かせて頂くとともに、コンクールの準備に費やされた膨大な労力に敬意を払いたいと思います。

アジア大会に参加されたほぼ全員が、非常に高いピアノの技術をお持ちで、綿密に準備されてきたと感じました。皆さんが今後更に芸術的な研鑽を積まれる上で、是非ご検討頂きたい点についていくつか述べたいと思います。

全ての演奏を聴いてまず思ったのは、曲の内容や感情の深さにもっと関わろうとする姿勢が必要であるということです。皆さん素晴らしいピアノテクニックをお持ちですので、作品をより深く掘り下げ、より細部まで解釈し、「自身が作品をどのように理解していて、音楽を通して何を表現したいのか」を示す

ことができると思います。ただそのためには、ある程度の創造性と芸術的な想像力が必要です。

もうひとつ重要なのは、音質へのこだわりです。特にフォルテの音量で表情豊かなクライマックスを構築しようとするとき、芯のある音で支えなければなりません。これは自然で適切な方法です。しかし、特にショパンの作品においては、それは決して硬くて耳障りな音ではなく、深くて高貴な音でなければならないのです。音に敏感であるということは、その美しさを追求するだけでなく、多様な音色へのこだわりと、楽器から様々な音色を引き出そうとすることであり、その結果、異なったアーティキュレーションを使用することになります。ショパンが好んで使ったアーティキュレーションは、レガート・カンタービレでした。もうひとつショパンがよく使ったアーティキュレーションは、レグジェーロです。今回のコンクールにおいて、特に歌うようなノクターン、抒情的なバラード、その他舞曲などで、これらの2つのアーティキュレーションは、あまり聴こえてきませんでした。異なったアーティキュレーションや多彩な音色を弾き分けることは、様々な音の層を生み出すと同時に重要な声部を強調し、それらが適切なバランスで聞こえるようにすることです。全ての音が同じように重要であるということは決してありません。ある音が目標であるならば、他の音はその目標へと導く役割があるのです。

また、自然なアゴーギクについても改善の余地があると思います。音楽の中で時間をどのように使うかということは、表情やクライマックスを作り出したり、作品を自然な語り口（ナレーション）で演奏するためにとっても重要です。ショパンの使った、美しくも難しい「テンポ・ルバート」という言葉には、多くのことが含まれています。もちろん、これは「均等」という意味ではありません。自然に表現するために、より深い呼吸、落ち着き、そして時にはせつちかな「*stretto*（ストレット）」となることもあります。しかし、これらはどれも、一続きの語り口や長いフレーズを崩さずに奏されなければなりません。

もうひとつ、コンクールでの演奏に関連して触れておきたいのは、楽譜を正しく読むということです。まず1つ目は、強弱、アゴーギク、アーティキュレーション記号を直訳しすぎていることです。スタッカートやアクセントをどのように弾くかということは、曲の内容や性格に大きく左右されることを覚えておいてください。ピアノとフォルテの音量では、アクセントの弾き方も変わってきます。また、叙情的なワルツと生き生きとしたオベレクでは、スタッカートの弾き方も変わります。2つ目は、文字通り、楽譜に書かれている音とリズムを正しく読んで弾くということです。音符の読み間違いで和声が大きく変わり、音楽的な意味も変わってしまった演奏がありました。今私たちは多くの版や録音に接することができるので、このような初歩的なミスは簡単に確認することができるはずですが、逆に言うところのようなミスは楽譜を表面的にしか読んでいないということを表していると思います。

もちろん、聴衆のいない場所でコンサートの雰囲気もないまま、カメラとマイクに向かって演奏することは、簡単なことではないでしょう。それでもなお、ピアニストの皆さんが「生」で音楽を創る喜びやインスピレーション、そして自分自身の中にある自発性を見出し、自分の音楽的個性を発見できることをお祈りしています。

●審査員 D

多くの素晴らしい演奏を聴かせて頂き、見事な技術と音楽表現に驚きました。その中で、少し気になる点がありました。とてもよく表現されているのですが、その場面に合っていない音の選択になってしまっている演奏が見受けられました。常にアグレッシブになって、圧力のかけ過ぎたタッチにならないように気を付けて欲しいです。色々な歌いまわしがあり、例えば「あっさり歌う」ことを身に付けると、より表現の幅が広がると思います。多彩な音(音色・音質)で表現出来るようにこれからも頑張ってください。

●審査員 E

- ①自分の持ち音がまずは美しい事がたいせつです。ショパンは美しさへの探求だと思います。
- ②そして左手の音楽も右手と同じように感情を込めて弾けているかというのが大切です。
- ③模倣ではなく、自分はこのように感じているという主張が欲しいです。

●審査員 F

フレージングを自然に表現してください。歌おうとするあまり身体を大きく揺らし、ルバートのかけすぎで流れが重くなったりフレーズが小さくなりがち。深く内面的な表現を目指してさらにショパンの音楽を奏でてってください。